

NO	団体名	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
	石川地域づくり協会	①原 亮 ②福島 健一郎 ③谷本 互 ④赤須 治郎 ⑤濱 博一 ⑥森山 奈美 ⑦村本 睦戸 ⑧石崎 英純 ⑨大地 美子 ⑩仁志出 憲聖 ⑪埴 正浩	①株式会社CCL取締役 ②アイバプリッシング株式会社 代表取締役 ③まち&むら研究所 ④赤須企画事務所 ⑤株式会社アスリック ⑥株式会社御成川 ⑦ドメインリーダーシップ育成 センター ⑧NPO法人金蔵学校 ⑨i-planning ⑩KAKUMA NO HIROBA ⑪株式会社日本海コンサルタン ト	石川大会の成功に向けて円陣を組もう! 知恵を持ち寄る地域づくり円陣	平成26年11月22日
		講演内容		研修成果	
1		<p>(第1分科会) ・「IT×地域」(事例紹介) 1) code for KANAZAWA(福島氏) 2) KAKUMA NO HIROBA(仁志出氏) 3) ITで地域の見える化合同プロジェクト(村本氏) ・アイデアソンの実施(体験版)(福島氏) アイデア+マラソンを合わせた造語。テーマを定め、アイデアを出し合いまとめる。 ・原 亮氏の講演会(原氏) 原氏が東北地方などで実践している「ローカルでITを利用した地域づくり」についての講演。</p> <p>(第2分科会) ・竹の浦館の台所事情(分科会主催団体の活動紹介) ・食を活用した地域づくり(事例紹介)(谷本氏) ・味噌汁作り、交流ランチ ・地域づくり団体全国研修交流会石川大会に向けてのワークショップ(赤須氏) 1) 竹の浦館の魅力と課題の整理 2) 全国の団体の課題の紹介 3) 「発酵の里」とは? イメージ、要素、期待など意見交換 4) 分科会内容の具体案 3つのグループに分かれアイデアを出し合いまとめる。</p> <p>(第3分科会) ・地域づくり団体全国研修交流会石川大会に向けての合同ワークショップ(森山氏) 石川大会の分科会関係者21名が4つのグループに分かれ、地域づくりコーディネーター5名(濱氏、森山氏、石崎氏、大地氏、埴氏)がそれぞれのグループに参加し、各分科会の企画を練るワークショップを開催。 ・各分科会の分類(森山氏) 石川大会の分科会を、①地域に元気を広げる「活動系」、②地域の宝の活かしかたに焦点をあてた「資源系」、③災害から地域再生を図っていく「根根系」という言葉に整理。 (全体会) ・分科会報告 全体会のコーディネーターである濱氏の進行のもと、各分科会での成果や浮かび上がった課題を参加者全員で共有。 ・ひな壇トーク 石川大会に向けた全体の運営上の課題や、分科会を実施するための核(コア)の明確化など問題提起があり、ひな壇に登壇した方々(谷本氏、赤須氏、森山氏、村本氏、大地氏、仁志出氏、埴氏)が中心となり議論を行いながら、参加者からも質問や意見を汲み上げ、石川大会の成功に向け、会場全体で知恵を持ち寄った。</p>		<p>参加者数:110名 参加者からは、「色々な意見が聞けて良かった」、「来年の全国大会に来た人が石川のあたたか味を感じ、地域づくりに有意義であったと思えるようにしたい」といった意見が多く見られ、来年の石川大会に向け、参加者の士気を高められた。 さらに、「地域につながりを造るITとは、地域づくりに必要なツールで縦割りの地域づくりに横串を刺し入れるもの知った」というように、ITの重要性など、具体的な気付きを得た参加者も多かった。 また、「新しい出会いがあり、今後につながりそう」との意見も多く見られ、円陣の目的である団体相互のネットワークの形成、情報交換や他の団体との交流が図られ、参加者の刺激にもつながった。</p>	

NO	団体名	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
	地域づくりネットワーク長野県協議会	①伊藤 祐三 ②内山 二郎	①共同通信社編集局地域報道部編集委員 ②フリージャーナリスト	やまびこフォーラム2014in上伊那 「地域づくりの主役は私たち〜夢!・魅力発信!・交流!〜」	平成26年11月15日
		講演内容		研修成果	
2		<p><講演会> 伊藤氏から「地域再生 3つの手掛かり」をテーマに据え、人口減少社会の中で地域が生き残っていく考え方について、「身の丈に合った選択」「その地域ならではの物語」「開かれた取組」といった3つのポイントを重点に置いて、これらを地域で実行していくためにはまず地域に愛着を持つことが重要だということをご講演いただいた。 <ワークショップ> 内山氏の指導の下、本フォーラムのメインテーマでもある「夢」「魅力発信」「交流」を討論テーマとして、いくつものテーブルに分かれてチームごとで意見交換・話し合いを行い、テーブルごとで発表を行った。伊藤氏にも一緒に参加していただき、ワークショップの際の意見のまとめ方や発表の仕方について、ご指導をいただいた。</p>		<p>参加者数:184名 ・沖縄県や岡山県等の市町村の具体的な事例を交えて、「身の丈に合った選択」「その地域ならではの物語」「開かれた取組」についての大切さを改めて学ぶことができた。地域再生のために必要不可欠な地元への愛着を持つためには、地域にはあるものを把握し、その魅力を見つけその有効な使用方法を吟味していくことが重要であるということをご再認識した。 ・ワークショップはテーマごとに参加者を班分けしてワールドカフェ方式で実施したが、共通の課題について意見交換・発表を行った結果、普段あまり接点のない参加者同士が気楽に交流することができる環境を演出することができ、今後の地域づくり団体活動の拡充、円滑化に貢献することができた。</p>	

NO	団体名	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
3	愛知県地域づくり団体交流協議会	山田 崇	塩尻商工会議所総務課主任	公務員が元気なら、地域は絶対元気になる～人と人、人と地域をつなげたい～	平成27年1月28日
	講演内容			研修成果	
	<p>「地域の課題を想像で捉えるのではなく、実際に住んでみると商店街の現状・課題はわからない」と地元塩尻の商店街に空き家を有志と共に借りて住み、商店街の賑わい創出を手がける。そのスペースを「nanoda(ナノダ)」と名付け、「公務員が元気なら、地域は絶対元気になる!」と、その熱意に巻き込まれたメンバーと共に多様な活動を実施。「人と人、人と地域をつなげる」企画を展開している。また、地方は若者の取り合いになっており、地域に若者を呼び込むには、若者を応援する大人を増やさなければならない。塩尻に住む人が塩尻にも職があること、塩尻の魅力首都圏の若者に知ってもらおうツアー(人に会いに行く旅)も実施している。地方自治法第一条の二「地方公共団体は、住民の福祉の増進を図ることを基本として、地域における行政を自主的かつ総合的に実施する役割を広く担うものとする。」を引用し、一人を救えない人は、多くを救えない。行政は、その仕組みを考えなければいけない。知識、情報だけを得て「行動しない評論家」のような行政職員にならないように心がけている。持続可能な自治体経営をするために何が必要か世代を越えて、そして地域住民を交えて「対話」をするとともに「行動」に移している。</p>			<p>参加者数:106名 山田氏の勤務時間外での取組で商店街を借りて実際に行動に移し、地域の課題は何か、商店街の課題は何かを実際に住んでいるひとから聞き取り、行動に移していく取り組みに感銘し引き込まれた。何か自身の町でもできることはあるのではと、やる気にさせる内容であった。 また、地域づくり団体の方も行政職員も地域住民の福祉の増進を図るために自主的かつ総合的に実施していく塩尻市の挑戦を学んだことで、何か地域のために「行動する」意欲を得られた。</p>	

NO	団体名	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
4	佐賀県地域づくりネットワーク協議会	東川 隆太郎	NPO法人まちづくり地域フォーラム 代表理事	僕立公園・世間遺産と地域づくり	平成26年6月28日
	講演内容			研修成果	
	<p>「まち歩きのプロ」として、ご自身がまち歩きを通して、観光・環境保護など地域の活性化に取り組んだポイントを紹介。 1. 世間遺産⇒身近なもの 2. 僕立公園⇒好きな景色 それぞれの価値を地域内で認識し、情報の発信</p>			<p>参加者数:49名 今回は「観光」というキーワードより、地域の価値の見つけ方や地域の価値を発信する様々な事例を提示いただいた。これら多くの事例から、今後の佐賀県のまちづくりへの取り組み方として、今後さらにCSOと行政と企業が連携していく新たな事業を見つけていくしかけづくり、楽しみながら活動することの大切さ、それが継続に繋がるポイントであることなど。佐賀県内各地のまちづくり活動団体が、まちづくりに対する意識高揚と実践・あらたな展開を図れる、貴重なアイデアをいただいた。元気で活力ある町づくりを実現かつ持続していけるよう、佐賀県のまちづくり活動の機能強化に活かしていける研修内容であった。</p>	

NO	団体名	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
5	長崎県地域づくりネットワーク協議会	①齋藤 治仁 ②佐藤 真一 ③加留部 貴行	①道の駅ばんだい 駅長 ②株式会社バリュー・クリエーション・サービス 代表取締役 ③九州大学大学院統合新領学府 客員准教授	長崎県地域づくりネットワーク協議会研修	平成27年2月14日
	講演内容			研修成果	
	<p>【齋藤講師】 地域資源を活かした商品開発及び販路拡大をテーマに道の駅ばんだいでの取り組みに触れつつ、生産から販売までのポイントについて講演していただいた。 【佐藤講師】 地域資源を活かした観光戦略をテーマに佐藤講師自身が関わった事例をもとに、そのポイントについて講演していただいた。 【加留部講師】 ワールドカフェ方式によるワークショップの実施。参加者自身の地域における資源の再発見、活用のため、討議を行った。</p>			<p>参加者数:63名 ①地域資源を活かしたまちづくりをテーマに3名の講師からそれぞれ、講演及びワークショップを実施していただくことで、参加者が地域資源の活用について、多角的に見つめなおす機会となった。 ②夜なべ交流を実施することで、会員、市町村職員の意見交換、ネットワークの構築の機会となった。 ③一般の参加者も多数参加され、入会のPRを行うことが出来た。</p>	

NO	団体名	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
6	南のふるさとづくり協議会	①丸山 泰 ②東 和博 ③緒方 祥之 ④引地 渉	①熊本県立大学 教授 ②東国際特許事務所 弁理士 ③NPO法人かごしま地域支援協会 副理事長 ④南日本新聞社事業部	地場製品のブランディングによる販売促進	平成26年9月19日
	講演内容			研修成果	
	<p>マーケティングとは何か～マーケティングとブランディング ・マーケティングのポイント ・ブランディングとは何か ・ブランディングのポイント ・ブランディングのステップ(ブランド開発)</p> <p>地域活性化のマーケティングモデル 担い手～価値の創造～価値の伝達 ブランドは常に進化する、変化する 製品⇒良い商品⇒好きな商品⇒評判の良い商品⇒かけがえのない商品</p>			<p>参加者数:54名 マーケティングにおける「ブランディング」という聞きなれない言葉をテーマとした講演会であったが、講師の多彩な事例をふまえた説明で、ブランディングの意義と重要性を参加者にわかりやすく伝えることが出来た。 また、パネル討論会においては、ある企業の協力により実際の商品をサンプルとしてブランディング的視点から検証することができ、非常に実際の議論が展開され大変有意義であった。 指導・交流会においては、参加者が直接講師及びパネリストに指導を仰ぐ機会を持つことができ、また、参加者同士の交流を深める機会を持つことができ、有意義な時間を過ごすことができた。</p>	